

# モモ

J A ふくおか八女 宮農指導部園芸指導課

姫野勝弘

施設栽培の開花期である、二月中旬から三月下旬までに二〇℃を超える日が八日あり、満開期に高温になる園が多く見られました。特に二月開花園は二重被覆を行っている園が多く、高温障害による結実不良が懸念されました。

今年には施設栽培では高温を防いで結実を促進するために開花期の換気が徹底できるように、内張の巻き上げや、妻面の解放、送風機による空気の流動を促すなどの対策をお願いします（写真2）。

露地栽培では満開時に雨が降った

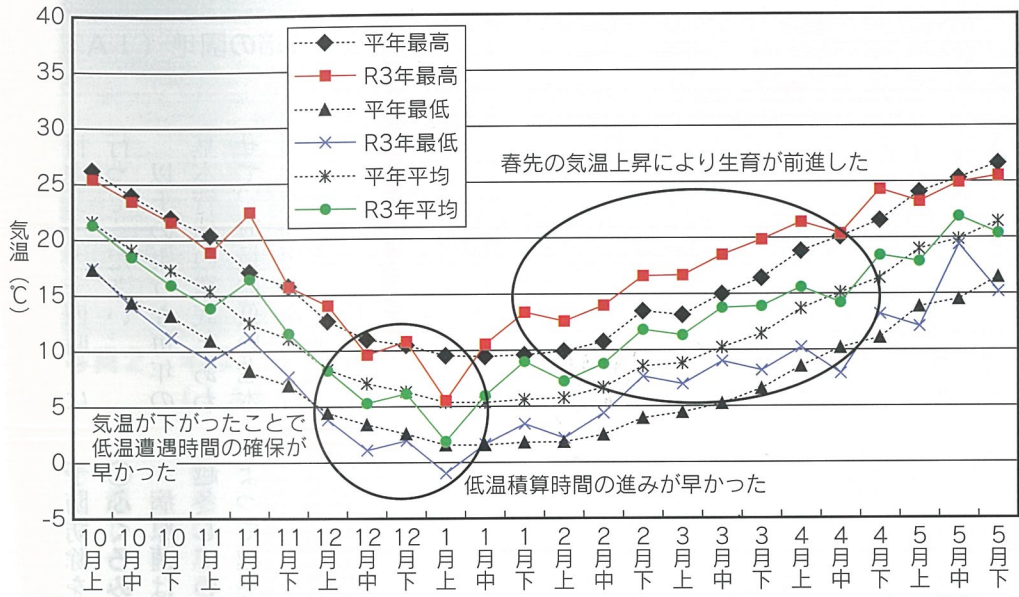
## 昨年の反省をふまえた 本年の生産対策（第1 図、第2図）

### 【休眠期】

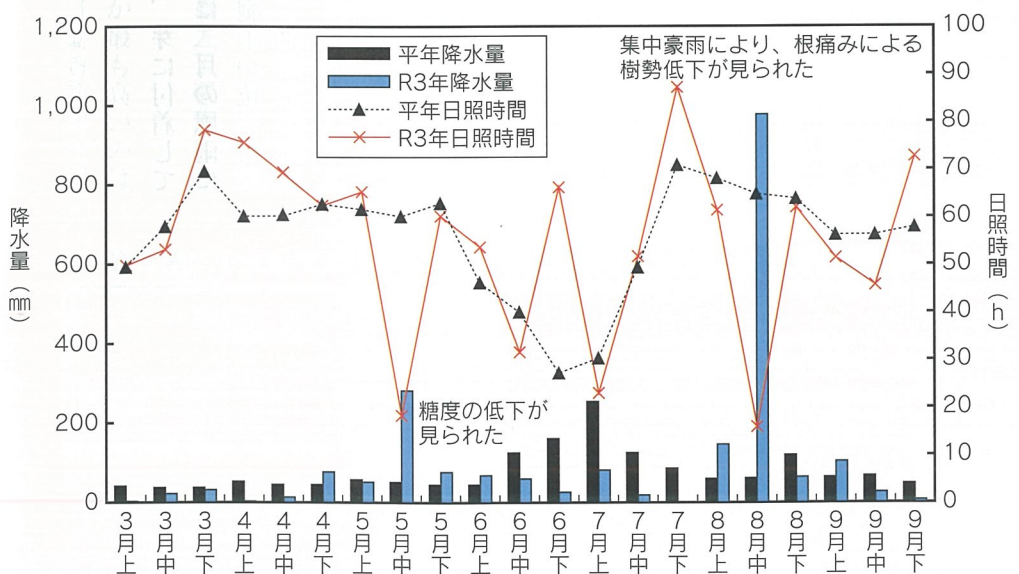
令和二年十一月は高温で推移したものの十二月から気温が下がり、特に昨年一月上旬は最高気温が七℃を下回る日が多かったこともあり、休眠覚醒の指標となる低温積算時間は急速に進みました。施設栽培の被覆開始目安となる八百時間に到達したのは、暖冬だった昨年より二十六日早い一月十四日となり（八女市観測）、被覆作業をスムーズに進めることができました。

### 【開花期】

昨年は一月下旬より気温が高めで推移したため、施設栽培から露地栽培まですべての作型で、開花が前倒しとなりました（写真1）。



第1図 令和3年の気温推移とモモの生育（J A ふくおか八女 観測機）



第2図 令和3年の日照・降水量の推移とモモの生育（J A ふくおか八女 観測機）



写真1 施設栽培のモモの開花状況

ものの、前後の天候に恵まれたため、結実は比較的安定していました。

### 【結実対策】

施設栽培では自然の風媒、虫媒による受粉が見込めないため、基本的には人工受粉か、ミツバチの巣箱を園内に配置することで交配を行います。

昨年は天候に恵まれミツバチの飛びがよかつたのですが、曇天が続く年ではハウス内の温度が低くなり、ミツバチが巣箱から出てこないこともあります。

そこでミツバチの飛びをよくする資材「カモンビービー」(ミツバチ



写真2 施設栽培のモモの結実状況

が好む花の香りを凝縮して固めた資材。花の香りでミツバチを巣箱から誘い出す。(写真3、写真4)を試してみましたところ、設置園では香りに誘われて他より早い時間からミツバチが訪花を始めることが確認できました。今後人工受粉を行えない園で推奨していかうと考えています。

また、八女地区では最終着果量を確保するために、せん定時には結果枝を多く残す、摘蕾を控えめにします。結実が確認できるまで一次摘果を遅らせる、などの生産対策を行っています。

### 【果実肥大期】

前述の通り、八女地区では摘蕾を控えめにして一次摘果を遅らせるな



写真3 カモンビービー資材画像



写真4 カモンビービー果樹園地使用例

ど貯蔵養分の消費量が多くなる管理を行っているため、初期肥大が劣ります。そのため大玉生産は難しくなりましたが、近年ではパックでの需要が伸びているため、有利販売を行うことができている。

今後は八女地区では大玉にこだわらず、量販店向けの生産を行い、出荷量の確保を優先することが、販売高の維持につながると考えています。

### 【成熟期】

昨年は梅雨入りが五月十一日ごろと早く、着色期に当たる作型では着色不良が見られました。

特に低温要求量が少ない「さくひめ」では着色不良が顕著に見られたため、次年度以降のマルチ敷設時期は収穫前二週間を徹底し、着色向上を目指したいと思います。

収穫前防除後に反射マルチを敷設する園が多く、実質収穫前一週間でのマルチとなっているため、できるだけ収穫前二週間を目安にマルチの敷設を行うようにしていきます。

### 【収穫期】

昨年の施設栽培の収穫開始は四月二十一日と昨年より七日早く、八女の部会設立以来一番早い販売となりました。

四月に収穫を迎えた作型では、開花期に高温に当たっている園が多く、出荷開始から核割れが多く見られました。

結実対策同様に開花期にはしつか

り換気を行い、ハウス内が高温にならないようにすることが、核割れの発生を抑制することにつながりますので、日中は常にハウス内の温度に気を付けましょう。

また、施設栽培では五月二十日に一八〇mmの雨が降った後、糖度の低下が見られました。その後天候が回復したため徐々に糖度も回復し、出荷のピークを迎える六月上旬には糖度も回復しており、順調な販売を行うことができました。

露地栽培は六月六日と昨年より六日早い出荷開始となりました。無加温栽培も前倒しでの出荷となつたため、施設から露地とスムーズに販売を移行できたことで、高単価での出荷が出来ました。

近年成熟が急ぐことが増えていまして、毎年収穫遅れになる園は、収穫適期の再確認はもちろんです。作型の見直しも必要になりますので、農協や普及所に相談してみましよう。

## 【病害虫ほか】

### ・せん孔細菌病

全国的に問題になっているせん孔細菌病ですが、生育ステージに合わせた防除を主体としたことで、初発の見落としによる感染拡大や、収穫

直前での発生を抑えることができています。また、生育期以外でも枝病斑の除去や、防風ネットの設置など耕種的防除を行うことで、発生源を減らしていくことが重要です。昨年発生を抑えることができた園でも、油断せずにせん孔細菌病対策を実施していきましょう。

### ・カイガラムシ

カイガラムシにおいては萌芽前のアプロードフロアブルにアピオンEの混用散布を行うようになり、初期の発生は抑えることができています。しかし、秋ごろになると徐々に増え始め、せん定を行う時期には多発している園も見られますので、収穫後も油断せずに防除を行いましょう。

### ・枯死症

今年春期の枯死症は小発生でしたが、秋期の枯死症は苗木を中心に多発しました。要因としては八月十一日から十四日までの間で八〇〇mmの雨が降り、冠水状態が続いたことによる根傷みの発生とその後九月下旬からの高温乾燥を受けて枯死している園が多いと考えています。

対策としては排水対策をしっかりと行うこと。また、高温乾燥が続く場合はかん水を行い、樹のストレスを

減らすことが必要と思います。

また、枯死症の要因の一つに凍害があげられます。凍害対策としては、深根性の「ひだ国府紅しだけ」苗木を使用した苗の導入も効果がみられています。従来の苗木と比較して若い性のため、初期生育は遅く感じますが、その分樹体が締まり、ストレスに強くなるそうです。実際に導入している園では樹脂症の発生が少ないなど、効果が感じられます。今後の生育に問題がなければ導入を進めたいと考えています。

## 【最後に】

近年では異常気象と呼ばれる年が非常に多くなっています。そんな中でも、暖冬や、夏季の高温、集中豪雨などは発生が増えています。こういった気象に対応できるように、低温要求量の少ない品種の導入や、かん水設備の導入、排水対策の実施など、前もって準備できることを行うことが、これからの安定生産につながると思いますので、果樹経営支援対策事業や、高収益事業を利用しながら備えていきましょう。



福山地方卸売市場

福山青果株式会社

代表取締役社長 高橋 康義

〒721-0942 広島県福山市引野町1丁目1番1号  
TEL 代表 (084) 941-3550 FAX (084) 943-9006  
E-mail: fuseika@violin.ocn.ne.jp



備後青果株式会社

備後青果株式会社

代表取締役社長 空 博 司

〒721-0942 福山市引野町1丁目1番1号  
電話 (084) 941-3450 (代表)  
FAX (084) 941-3009